



地域医療
支援病院

災害拠点
病院

地域がん
診療連携
拠点病院

患者サポートセンター広報誌

九州労災病院

九労 Kyuro Hello! ハロー



理念 地域住民と勤労者の皆様に、良質で安全な医療を提供します。

- 基本方針**
- 患者さんの権利を尊重し、患者さん中心の医療を提供します。
 - 地域医療機関との連携を重視し、中核病院として高度専門医療を担います。
 - 働く人々の健康を守り、治療と仕事の両立を支援します。
 - 患者さんに寄り添う心と、高い技能を兼ね備えた医療人を育成します。
 - 経営基盤が安定し、働き甲斐のある病院づくりを目指します。



2021 January vol.85



院長
岩本 幸英

謹んで新春の寿ぎを申し上げます

皆様、明けましておめでとうございます。昨年は思いがけない新型コロナウイルスのパンデミックに見舞われ、世界中がその対策に明け暮れた1年でした。2021年の年頭にあたり、まず、早期にパンデミックが終息し、皆様がもとの平穏な日常を取り戻されることを心から祈念申し上げます。本年当院は、地域のコロナ対策に貢献しつつ、本来の責務である地域の急性期医療を担う基幹病院としての役割を果たして行きたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

＊地域連携の強化

「患者サポートセンター」の活動

当院は、すべての診療科がかかりつけ医の皆様との連携のもと、地域住民の皆様への期待に応じて参ります。2020年には、地域医療連携強化のために、「地域連携室」の名称を「患者サポートセンター」に改め、4つの部門（地域連携部門、患者相談窓口、入退院支援部門、社会福祉部門）を設け、各部門の機能を充実させました。今後、患者サポートセンターを通じ、皆様と今まで以上の緊密な連携を行いたいと思っております。

＊がん診療の強化

「地域がん診療連携拠点病院」としての活動

従来、当院のがん診療を担ってきた内科、外科、泌尿器科、皮膚科・形成外科、産婦人科等に加え、2016年に整形外科内部に骨軟部腫瘍外科、2017年に放射線治療科を新設、さらに2019年に外来化学療法室の拡張を行うなど、がん診療の強化に努めてまいりました。また、2019年には歯科口腔外科を開設し、がん患者の周術期口腔ケア管理も行えるようにしました。以上の取り組みの結果、当院のがん患者は次第に増加し、2020年には地域がん診療連携拠点病院の認定を受けました。今後、さらなるがん診療の充実を図りたいと思っております。

＊救急・災害医療体制の充実

当院は、救急医療に力を入れています。一刻を争う脳卒中や心筋梗塞の治療では、救急隊と緊密な連携を構築し、24時間体制で早期治療に当たっています。また、当院の整形外科は充実しており、骨折をはじめとする外傷に対し、高度な専門の治療を提供しています。九労は今後さらに救急医療体制の充実を図ります。また当院は、2016年に災害拠点病院に認定されています。今後、予測不能な大災害に適宜対応し、地域の皆様の期待に応じていきたいと存じます。

＊勤労者医療の充実

地域の基幹病院としての役割に加え、勤労者医療の充実は、当院のもう一つの大きな使命です。従来どおり労働関連の疾患の治療と健診、勤労者のメンタルヘルスケア、生活習慣病の予防・治療、脳卒中などの職場復帰支援に取り組む一方、がん患者の就労・職場復帰支援にも積極的に取り組んでおります。

当院が今後も地域の皆様に「安全で良質な医療」を提供し続けていくためには、地域の先生方との連携をさらに緊密にする必要があります。皆様のより一層のご指導とご支援をお願い申し上げます。



リハビリテーション科



リハビリテーション科部長

たちばな ともひろ
橘 智弘

麻痺に伴う痙縮 (筋肉のつっぱり) でお困りの患者さんに

ボツリヌス療法 をしています。

診察が終わって、立ち上がった脳卒中患者さんの中に、麻痺した手足がつっぱって、イラストのように不自由そうに歩き出す患者さんはいませんか？

これは、脳卒中に代表される上位運動ニューロン障害による、痙縮 (けいしゆく) と呼ばれる兆候です。

麻痺した手足は、動かないだけでなく、勝手に筋肉がつっぱります。

痙縮は、患者さんの生活に悪影響を及ぼし、介護者の負担も増大させます。

悪影響や負担には、次のようなことがあります。

痙縮が引き起こす悪影響や負担

- ① 腕や手、指が曲がったまま伸びずに、着替えにくい。
- ② 指を握り込んで、手のひらに爪が食い込んでしまう。
- ③ 腕や脚が重たい。痛い。
- ④ つま先が立って、歩きにくい。
- ⑤ 装具に脚が合わなくて、痛い。傷ができる。
- ⑥ 不快で、イライラする。



gsk 手足のつっぱり痙縮情報ガイド
(<http://keishuku.jp/keishuku/>)
より改変して引用

これらは、診察室の中で座っている患者さんを診ているだけでは、わかりにくいことがあります。

患者さんや介護者の方々に、生活の中で困っていないかを尋ねてみてください。

一つでも当てはまる場合、それは痙縮が原因かもしれません。

もしも、痙縮が原因であるならば、お勧めしたい治療法があります。

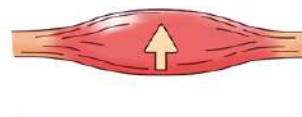
それが、当科で実施するボツリヌス療法です。

ボツリヌス療法とは、筋肉を緊張させている神経の働きをおさえるボツリヌス毒素というボツリヌス菌が作り出す天然の蛋白質を有効成分とする薬 (ボトックス®) を、筋肉内に注射する治療法です。

筋肉の緊張 [収縮]



筋肉の緊張をほくす [弛緩]



ボトックス注用 100 単位



gsk 手足のつっぱり痙縮情報ガイド
(<http://keishuku.jp/keishuku/>) より引用

ぜひ、当科にご相談を！



当科はこれまで、のべ約 380 人の患者さんへ実施してきました。

注射に要する時間は、15 分から 30 分程度です。

当科では、注射だけの日帰り治療に加えて、2 週間のリハビリテーション治療の入院プログラムを準備しています。

より質の高い生活を送るためには、身体のメンテナンスが欠かせません。

痙縮でお困りの患者さんがおられましたら、ぜひ一度、我々にご相談ください。



九労リソースナースのご紹介 **第1回**

ナースのスペシャリスト

慢性疾患看護専門看護師

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師

やすなが めぐみ

安永 恵



いつもお世話になっております。病院正面玄関から向かって左側に位置します患者サポートセンターに所属しております。専門分野は脳卒中看護ですが、生活習慣病を中心とした慢性疾患患者さんの看護に携わっております。慢性疾患の多くは経過が長く、完治が難しいため、生涯にわたり病気とうまく付き合うことが重要になります。そこで、慢性期にある患者さん・ご家族の思いを尊重し、慢性疾患の管理・セルフマネジメントに関する患者教育、就労支援を行っております。最近では、在宅自己注射治療が必要となる患者さん・ご家族の退院指導・支援にも関わっています。軽症脳卒中患者さんの場合は、当院から自宅復帰される方も多く、退院後の生活指導や再発予防教育にも力を注いでいます。患者教育では、特に脳卒中症状や発症時の受診行動が重要であり、患者さん・ご家族にもわかりやすい寸劇を取り入れた患者教育を行っております。

当院看護部の理念でもあります“患者さんに寄り添い温かく誠実な看護”の実践を心がけておりますので、今後ともご指導・ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

出張講義させていただきます！

内容

- 患者さん・ご家族の方へ「脳卒中の予防・再発予防」
- 医療従事者の方へ「脳卒中看護のきほん」 「再発予防教育」 など



がん地域医療連携セミナー(WEB研修) 掲載のお知らせ

がん地域医療連携セミナー(医療従事者向けWEB研修)を
当院HPに掲載いたしました。

演 題 特殊病態での放射線治療の役割～脊髄麻痺および腫瘍出血について～

講演者 放射線治療科 部長 野元 諭

閲覧については下記のユーザー名、パスワードが必要となります。
閲覧を希望される方は当院HPよりログインしてください。

ユーザー名 kyuroukenshu
パスワード Kyushurou96 (パスワードの最初のKは大文字)

地域住民向けWEB講座も併せて掲載しております。
動画閲覧後のアンケートにもご協力いただければ幸いです。



新型コロナウイルス
インフルエンザウイルス

感染拡大防止対策の実施

★開館時間の変更
7時→8時15分

★検温の実施
入口にて来院されま
す皆さま全員に検温
を実施いたします。

九州労災病院

〒800-0296 北九州市小倉南区曾根北町1-1
TEL 093-471-1121(代表)
ホームページ
<http://www.kyushuh.johas.go.jp>

診療案内

- 受付時間 午前8時15分～午前11時
- 救急受付 急患は24時間随時受け付けます
- 診療時間 午前8時45分～午後5時15分
- 休診日 土曜日・日曜日・祝日
年未年始(12月29日～1月3日)
- 初診時 5,500円
選定療養費 診療情報提供書のご持参を
お願いしております

患者サポートセンター

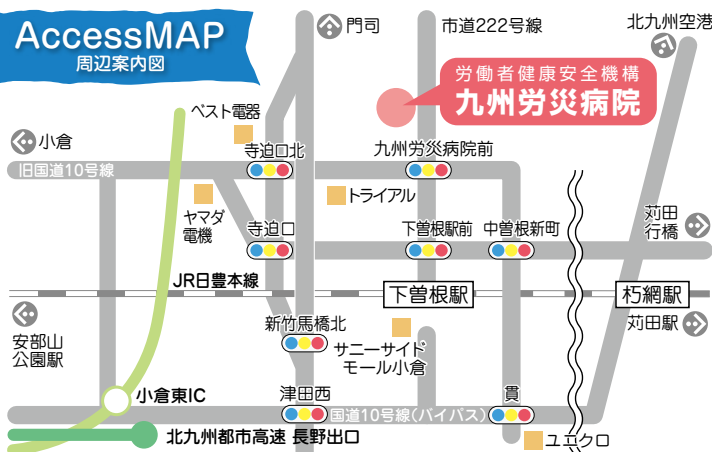
患者サポートセンターSTAFF

- センター長 副院長 中島 信能
- 副センター長 看護師長 樋渡 英子
医事課長 三浦 靖幸
- 入退院支援部門 看護師 岩崎 玲奈/安永 恵/松石 理英子
上原 敦子/河本 純子
- 社会福祉部門 M S W 坂出 友美/西村 ますみ/竹中 芳美
林 知夏
- 地域連携部門 事務 二見 誠司/武久 亜紀子/小笠原紗彩乃
黒田 早苗/西山 淳子

お問い合わせ先

- 入退院支援部門 代表電話 093-471-1121
- 社会福祉部門
- 地域連携部門 直通電話 093-475-9686
- 共通 F A X 093-473-5903
E-mail renkei.renk-k@kyushuh.johas.go.jp

AccessMAP 周辺案内図



患者サポートセンターをご利用ください

- 電話・FAXによる紹介患者さんの受診予約・事前受付
- MR I・C T・胃カメラ等の検査予約
- 救急診療のご依頼
- 転院に関する相談・紹介・問い合わせ
- 診療に関する様々な問い合わせ
- 患者さんに関する情報や返事が滞っている場合
- 診療情報提供書の発送業務
- 開放型病床利用に関すること
- セカンドオピニオン外来に関すること

